

慶應義塾中国文学会 第十回大会

開催日: 2025年7月12日(土) 13:00 開始(対面開催)

会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス 101 教室

大会タイムテーブル

12:30 開場

大会司会: 浅野雅樹(慶應義塾大学文学部 教授)

開会挨拶

13:00 - 13:05

杉野元子(慶應義塾中国文学会 会長)

研究発表

13:05 - 13:35(発表 20分+質疑応答 10分)

彭 芑(慶應義塾大学文学研究科 史学専攻東洋史学分野博士課程)

発表題目:「唐宋代文学にみえる病と狐」

発表要旨:

唐宋代の中国において、狐は単なる動物ではなく、靈的存在として社会と人々の生活に関与すると考えられていた。その中でも狐と病の関係について注目すべきである。この時期の文献には、狐が人に取り憑き、奇妙な病を引き起こす事例が記録されている。例えば、小説や医書には、狐の憑依が原因とされる病とその症状の記述が見られる。これらは単なる医学的な説明ではなく、道教や民間信仰の影響を受けた解釈でもある。また、疫病の流行も狐の憑靈信仰の普及と関係していると考えられる。本発表では、唐宋代の文献資料を分析し、狐と病の関係がどのように認識されていたかを明らかにする。具体的には、狐憑きの症状や治療法に関する記述を整理し、それが当時の医学や宗教観とどのように交差していたのかを考察する。特に、道士や医者などがどのように狐憑きを診断し、治療したのかを比較することで、当時の社会における病の説明と観念を探る。さらに、狐にまつわる病の語りが、後の動物靈信仰にどのような影響を与えたのかについても検討する。こうした研究により、唐宋代の人々が病をどのように理解し、超自然的存在との関わりの中でどのように対処していたのかを明らかにしようとする。

司会:吉永壮介(慶應義塾大学文学部 教授)

13:40 - 14:10(発表 20分+質疑応答 10分)

席 暢(慶應義塾大学文学部 非常勤講師)

発表題目:「李紳の詩における〈慚愧〉の表現及び白居易との相違」

発表要旨:

李紳の詩には「慚愧(「慚」あるいは「愧」一字のものも含む)」が用いられる。なお、この「慚愧」という表現は、同時期の白居易の詩にも多く見られる。白詩における「慚愧」の表現については、拙稿「白詩における卑下の表現(加筆の上、「白詩における「慚愧」の表現」に改題)」においてすでに考察した。しかし、李紳の詩における「慚愧」の表現に関しては、先行研究がごくわずかしか見当たらない。そこで本研究では、李紳の詩における「慚愧」の表現が具体的にどのような特徴を持つのかを分類し、詳細に考察した。また、白詩における「慚愧」と比較することで、その相違点を明らかにし、さらに李紳の生涯にわたる創作傾向の一端をも浮かび上がらせた。

司会:宮下聖俊(慶應義塾高等学校 教諭)

講演

第一部「十周年記念」

14:15 - 14:55(講演 30分+質疑応答 10分)

関根 謙(慶應義塾大学文学部 名誉教授)

演題:「創作と翻訳」

司会:杉野元子(慶應義塾大学大学院文学研究科 教授)

第二部「斯道文庫特集」

15:00 - 15:40(講演 30分+質疑応答 10分)

堀川 貴司(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 文庫長・教授)

演題:「斯道文庫の蔵書と研究」

司会:合山林太郎(慶應義塾大学文学部 教授)

15:45 - 16:25(講演 30分+質疑応答 10分)

住吉 朋彦(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 教授)

演題:「江戸幕府紅葉山文庫のデジタル化と蔵書研究」

司会:合山林太郎(慶應義塾大学文学部 教授)

16:30 - 17:10(講演 30分+質疑応答 10分)

矢島 明希子(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 准教授)

演題:「詩経の動植物を読む—斯道文庫の詩経名物書」

司会:合山林太郎(慶應義塾大学文学部 教授)

休憩

17:10 - 17:25

総会

17:25 - 17:55

懇親会

18:00~

場所:三田キャンパス「ザ・カフェテリア」(南校舎 4F)

参加費:6000円(学生:3000円)

協賛:慶應義塾大学 藝文学会

お問い合わせ先:慶應義塾中国文学会 事務局 (gakkai@keiochina.jp)